

平成 22 年 4 月 26 日現在

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：平成 19 年度 ～平成 22 年度

課題番号：19592524

研究課題名（和文）

出産体験に伴う母親の PTSD を予防するためのガイドラインの開発

研究課題名（英文）

研究代表者 松本鈴子（教授）

研究者番号：30229554

研究代表者の専門分野：母性・助産学

科研費の分科・細目：看護学・生涯発達看護学

キーワード：①心的外傷後ストレス ②出産体験 ③母親 ④出産後

1. 研究計画の概要

本研究は、母親が安心して育児ができ、
次回の妊娠・出産へとつなげるために、出
産後の母親の心的外傷後ストレス障害
(PTSD) を予防するための対応策を看護
の視点から提案することを目的とする。

健常新生児およびNICU入院児の母親の
PTSDの予防的対応策を提案する「出産体
験に伴うPTSDを予防するためのガイドラ
イン」の作成によって、助産師や看護師が
具体的な対策がわかり、早期に介入でき
ようになる。そして、医師や心理療法士と
連携をとりながら、母親がより専門的な支
援が受けられるようにソーシャルサポート
システムを確立するための手段となる。

これらは看護の質を向上させ、健常新生
児の母親や子どもがNICUに入院した母親
のPTSDの予防に貢献できる。さらには、
産後うつ病発症の予防や養育行動障害や家
族関係の障害の予防に寄与する。

2. 研究の進捗状況

1) 心的外傷後ストレスを引き起こしてい
る母親はどのような出産体験をしたの
か、また、印象に残っている場面を、
健常な心的外傷後ストレス状態の母親
と比較して、抽出できた。その結果を原
著論文として、H22年4月以降に投稿す
る。

2) 産褥1か月、3か月、6か月における
NICU入院時の母親および健常新生児の
心的外傷後ストレスの状態を縦断的に
比較分析した。

3. 現在までの達成度

産褥1か月・3か月・6か月における心的
外傷後ストレスの状態を明らかにでき、目標
1を達成した。

4. 今後の研究の推進方策

1) 妊娠・分娩・産褥期に助産師や看護師、
医師、その他の支援者から、どのような
支援を受けたと認識しているのか明らか
にする。さらに、どのような支援を必要
としているのか明らかにする。

2) 心的外傷後ストレスを引き起こしてい
る母親と、同様な心的外傷後体験をし、
心的外傷後ストレスを引き起こさなかつ
た母親への支援状況との違いを明らかに
する。

3) 分析結果に基づき、出産体験に伴う心
的外傷後ストレスの予防のためのガイド
ラインを作成する。

5. 代表的な研究成果

〔雑誌論文〕(計0件)

〔学会発表〕(計0件)

〔図書〕(計0件)

〔その他〕(計0件)